

## 中南米



観光客にマヤの土産ものを売る先住民の子どもたち。  
メキシコ（チチェンイツァ）

それほど立派な品物ではないけれど、笑顔で一生懸命に客に土産物をすすめなければ……。一つでも売れば、なんとかその日は暮らせる。



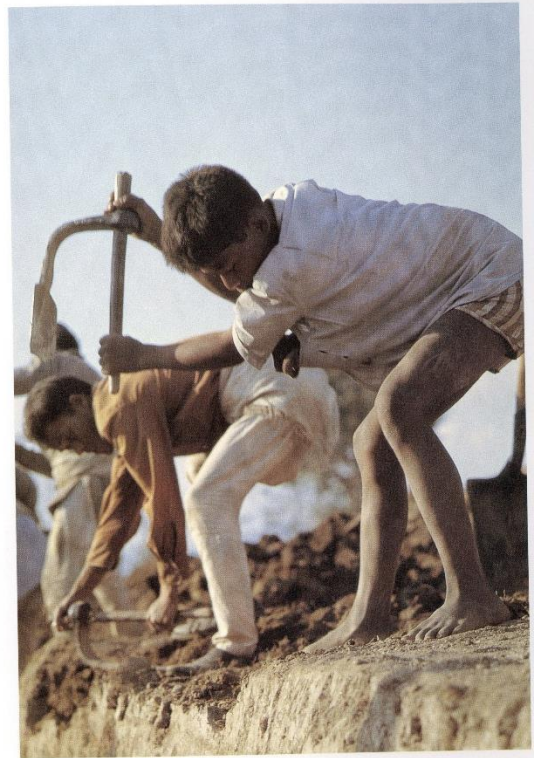
商品の土産ものを両手にいっぱい抱えて、笑顔をつくる先住民の少女。パナマ（サンブラス）

## アジア・オセアニア



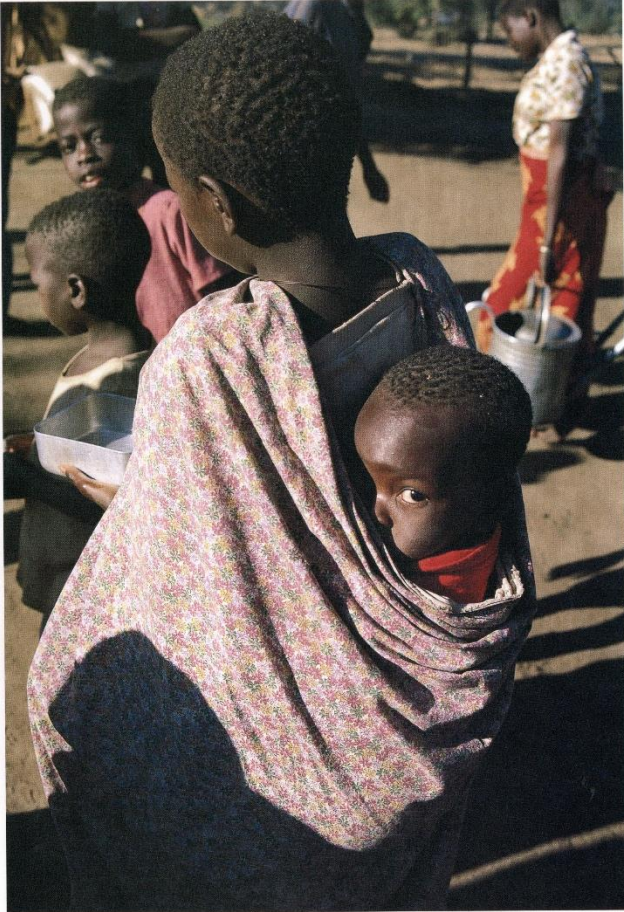
サツマイモを掘り出す。小さくて、ちょっとがっかり。トンガ（ラケバ）

工事を手伝っても、もらえるお金は大人の半分以下。でも、大人だって仕事が少ないのだから、お金をもらえることなら、きつい仕事だってやるしかない。



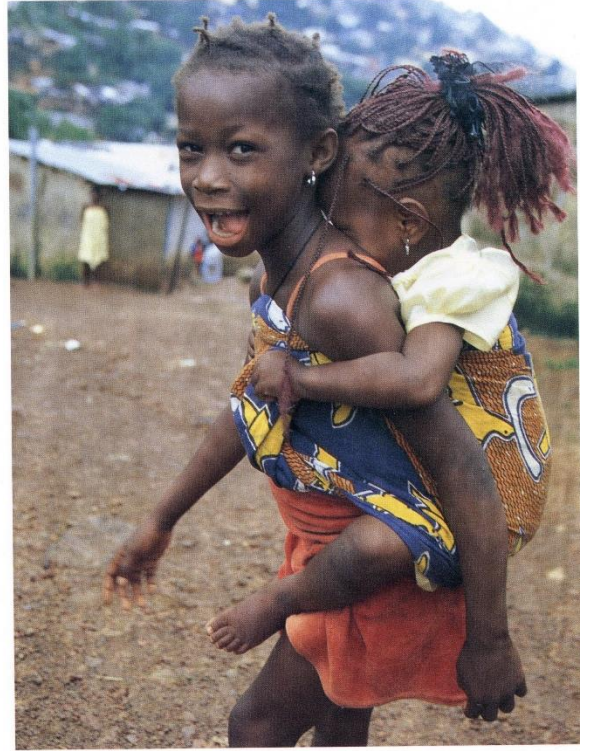
大人にまじって道路工事の現場で働く。ネパール（カトマンドゥ）

## アフリカ



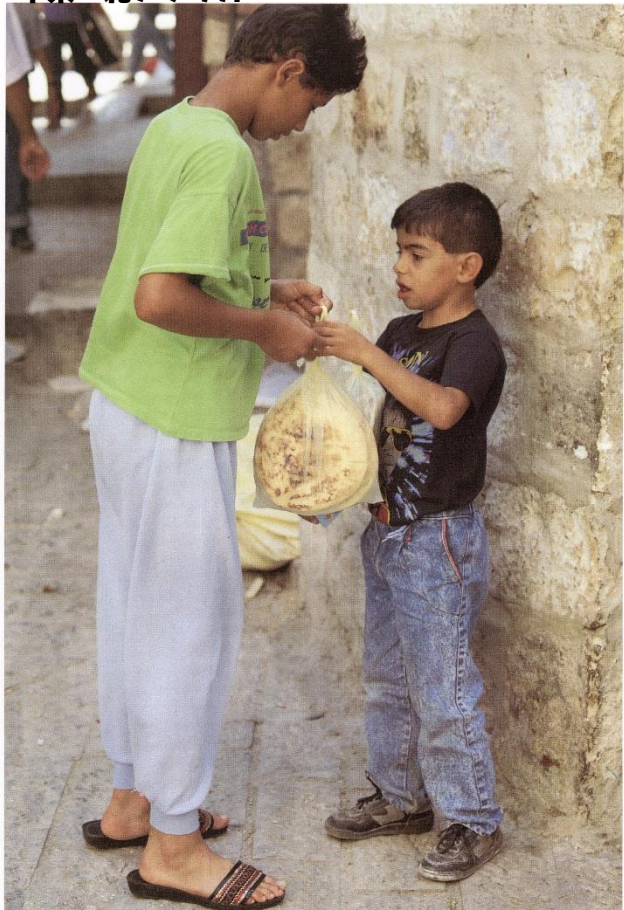
ほくがいちばん安心して落ちつくのは、お姉さんの背中だ。  
ジンバブエ（トンゴガラ・難民キャンプ）

5歳までの死亡率はとて高い。だから、赤ん坊をたくさん産むようになる。赤ん坊をおぶったり、めんどうを見るのは上の子にとってあたりまえの仕事だ。育児の本などないが、毎日世話をしているうちに、自然に覚えてしまう。



はずかしくて、大好きなお姉さんの背中に顔をかくす。シエラレオネ（フリータウン）

## 中東・北アフリカ



パンの配達をする弟に道順を何度も説明する。イスラエル（エルサレム）



市場で買ったおかずを鍋に入れて持ち帰る仲よし二人組。イエメン（サナア）

稼げる仕事があれば、なんでもいい。  
ぜいたくなことはいえない。安くても、  
働けることが大切なのだ。